

新入生を迎えることば

大学で学ぶということの意義



広島大学長
田 中 隆 荘

入学生諸君、入学おめでとう。
平成四年度学部学生、大学院学生の諸君を迎えることができたことは、広島大学にとって大きな慶びであります。諸君を心から歓迎します。

諸君が、広島大学で学ぶことを志し、このたびめでたく入学したことは、勿論、諸君の日頃の研鑽の賜物でありますが、それには、諸君の今日のこの日を中心にして、諸君を支えられたご家族、教え導かれた先生方、励ましてくれた友人や周りの方々の、深い理解によるものであります。この入学のときに当たり、それらの方々に対して、改めて諸君と共に、感謝の気持ちを表したいと思えます。

諸君は今日から、広島大学の学生であります。諸君の入学にあたって、大学で学ぶということの意義について、考えてみたいと思います。

大学は学問の中心であります。学問が集まっているところでもあります。その学問を創造し、深め、高度化するため、学術の研究を行うことは、大学の責務であります。また、学問を教授し、人材を育てることは、大学のもう一つの責務であります。

この学問とは、知識を体系的に組み立てたものことであります。例えば、遺伝学という学問は、遺伝という現象の確実な事実や性質、実際の事例や研究史、見解や学説、未解明な部分等の知識を集めて、体系的に組み立てたものであります。

諸君が、本学の学生として学問をおして学ぶ知識は、その量において膨大であり、その内容において多岐様様であります。しかし、諸君には、知識が単に増えることに停まることなく、それらの知識が学問に組み立てられていくとき、見方を変えて考察し、疑問点や未だ判っていない部分を示し、誰でももつともだと思ふ立場から組

み立てられていくということ、すなわち、学問は客観性と合理性を原則としているということを、学びとってもらいたいのであります。大学で学ぶということの意義は、学問によって知識を深め、客観性と合理性を身につけ、柔軟で豊かな創造力を養うことにあります。

いま人間は、世界史の転換点に立っています。人びとの価値観が多種多様となり、生活様式が多層層になる時代が到来しています。これからますます、新しい知識を増やし、学問を創造し、高度化することが大切になっております。感受性の強い時に、歴史の変化に立ち会える諸君は幸福であります。諸君の人生は長く、大学生時代は学問で力をつけるべきであります。基盤となる勉学を含めて、青春の一時期、猛烈に勉強することは、素晴らしいことでもあります。そのことは何時か何処かで、必ず役立つのであります。

広島大学は、意見や判断基準が違う人を、また、価値観や将来の夢が異なるいろいろの人を、幅広く擁している大学であります。諸君には、異なる見方や考え方に接し、卒直に、素直に語り合い、心を開き合って、闊達に学生生活を送ってもらいたい。広島大学ではいま、諸君と共に学ぶ五二〇名を超える留学生が、日夜勉学に励んでいます。諸君には、進んで共に語り合い、共に研鑽して、友達を世界に広げてもらいたい。

広島大学の一日一日は、諸君にとって掛け替えのない日々であります。広大生の抱く誇りと自信を土台とし、理想を描き、自律と責任の学生生活であることを心懸けてもらいたい。何ごとにつけて積極的に取組み、二度とないこの学生時代が、諸君にとって夢多き日々であることを祈っています。広島大学は諸君をしっかり受け止めて、諸君と共に前進しつづけます。改めて入学おめでとう。